

中国新聞「子どもたちへ本の招待状」に掲載された本の紹介
 (こども図書館職員が2020年5月17日～2021年3月28日に中国新聞「子どもたちへ本の招待状」で紹介した小学校低学年以上向けの本をまとめました。)



掲載日	掲載図書	紹介文
2020年 5月17日	よもぎだんご さとう わきこ さく (福音館書店)	どろだんごじゃなくて、ほんものよもぎだんごを作ろうと言い出したばばあちゃん。まずは材料を取りに出かけました。野原にはよもぎのほかにもいたりやつくし、のびるやせりなどがいっぱい。おうちに帰って下準備をしたら、いよいよよもぎだんご作りの始まり！ いろいろな草の料理を、ばばあちゃんが丁寧に教えてくれます。
	わにのはいた マーガレット・ドリアン ぶんとえ 光吉 夏弥 やく (大日本図書)	アリは動物園に住んでいるわにです。歯が痛いと話すと、みんなは心配し、歯医者に行った方がいいと言いました。「いやだなあ」と思いつつ出かけたところ、まちがえて別の行き先のバスに乗ってしまいます。これで行くなくてすむとアリは喜び、バスで出会った男の子の家で遊ぶことにしますが、やっぱりだんだん歯が痛くなってきて……。
2020年 6月21日	ふるやのもり 瀬田 貞二 再話 田島 征三 画 (福音館書店)	昔、ある村に、立派な子馬を育てているじいさんとばあさんがいました。雨の降る晩のこと、その馬を狙って、泥棒と狼が馬小屋に忍び込みます。それぞれ隠れていると、じいさんとばあさんの話し声が聞こえてきました。この世で一番怖いのは「ふるやのもり」だと言う2人の会話を聞いた泥棒と狼が、それはいいけどな化け物なのだろうと震えていると……。
	あめあめふれふれもつとふれ シャーリー・モガン 文 エドワード・アーティゾーニ 絵 なかがわ ちひろ 訳 (のら書店)	3日間も町中に雨が降り続けています。男の子と女の子のきょうだいは、家の中から窓の外を眺めています。2人の目には、空を駆け回る動物たちも、水たまりの上を走る自動車も、新聞配達のお兄さんも、みんなが雨の日を楽しんでいるように見えます。自分たちも外に出て雨の中を遊びたいなと思いつつ、2人は次々に想像を膨らませていきます。
2020年 7月26日	ひまわり 荒井 真紀 文・絵 (金の星社)	土の中から芽を出したひまわりは、空に向かってぐんぐん伸びていき、たくさん葉をつけ大きな花を咲かせます。ひまわりが成長し種を落とすまでを、美しい絵で描いた本。太陽を追いかけて向きを変える姿の様子や、花のつくりなどがよく分かり、観察にも役立ちます。一つ一つ様子の違う種をひっきり並べて描いたページも楽しいです。
	たんけんクラブシークレット ミルトレッド・マイリック ぶん アーノルド・ローベル 絵 小宮 由 やく (大日本図書)	砂浜に打ち上げられた空きビンを持ったピリーとマークは、暗号で書かれた手紙が中に入っているのを見つけます。それは、島の灯台守の息子トムからの「たんけんクラブ」への誘いの手紙でした。解読したピリーたちは、秘密の暗号を作ってトムに返事を書きます。手紙をビンに入れて海に投げ、島に住むトムへ送ると……！？
2020年 8月30日	こぶたのピクルス 小風 さち 文 夏目 ちさ 絵 (福音館書店)	ピクルスは元気なこぶたの男の子。「わすれ物は、ひとつもなし！」とカバンの中を点検して学校へ向かう途中、牛乳屋さん、パン屋さんに出会い、二人の配達物の忘れ物をいのぶたさんに届けることになりました。ところが今度は、ピクルスのお父さんに配達を忘れた新聞屋さんに出会って……。ピクルスの日常を描いた四つのお話を、豊富な挿絵とともに楽しめます。
	かしこくいきるシマリス 手島 圭三郎 絵・文 (絵本塾出版)	北海道に住むしまりすは、春から夏にかけて子育てします。夏の終わりのころ、母親から離れた子どもは自分の力で生きていかなければなりません。秋になると冬ごりの穴を探し、天敵と戦いながらどんぐりを運んでいきます。冬を越すには千個のどんぐりが必要なのです。厳しい自然の中で、力強く生きるしまりすの姿を木版画で描いた絵本です。
2020年 10月5日	たまごからうま 酒井 公子 再話 織茂 恭子 絵 (偕成社)	市場に馬を買いに行ったターは、足の速い馬の卵だとだまされて、かぼちゃを買ってしまいます。持って帰る途中、道端でひと眠りしている間に、キツネがかぼちゃにつまみついて、かぼちゃが割れてしまいました。目を覚ましたターは、逃げていくキツネを卵からかえった馬だと思い込み、急いで追いかけて……。ヘンガル地方の民話です。
	しゃべいにかんぱい! 宮川 ひろ 作 小泉 るみ子 絵 (童心社)	達也のお姉ちゃんのか奈は、毎年、運動会のリレーの選手に選ばれてきました。6年生になった今年はアンカーをつとめ、1着でゴールしますが、バトンパスの失敗で失格になってしまいます。か奈も食べられないほど落ち込むか奈を達也が心配する中、おじいちゃんが親類を集めました。みんなは自分の失敗談を、笑いを誘いながら語り……。
2020年 11月15日	巣箱の中で 鈴木 まもる 作・絵 (あかね書房)	鳥は、どんなふうになを育てるのでしょ？家の窓の外側に張り付けた巣箱の中へ、シジウカラがやってきました。鳥に気がつかないよう、部屋から巣箱の様子を観察します。卵が産まれ、14日目にととのそいでみると、8羽のひなが！ 餌やふんの世話をする親鳥と、少しずつ大きくなるひなたちの様子が、温かく描かれます。
	小さな赤いめんどり アリソン・アトリー 作 神宮 輝夫 訳 小池 アミゴ 絵 (こぐま社)	おなかをすかせた小さなめんどりが、独りぼっちで暮らすおばあさんの家に逃げてきました。優しく世話をし、前の悪い飼い主からも救ってくれたおばあさんのために、めんどりはせっせと働き、見事な縫物の腕前まで披露します。ところが、飼い主が現れ、さらわれてしまいました。実はこのめんどりには、隠された秘密があったのです。
2020年 12月13日	しもやけくま 今江 祥吾 ぶん あべ 弘士 え (文研出版)	寝相が悪いクマのワルは、冬眠中、右足が巣穴から飛び出し、寒さで霜焼けになってしまいます。かゆくてもぞもぞ動かしていると、立派なひげのおじいさんに見つかり、突然起こされます。夢うつつのワルにおじいさんは、大きな袋を運ぶの手伝ってほしいと頼んできて……。ワルの不思議な体験をユーモアたっぷりに描いた物語です。
	じょやのかね とうこう なりさ さく (福音館書店)	大みそかの夜、「ぼく」はお父さんと除夜の鐘をつきにお寺に向かいます。暗い夜道を歩いてお寺に着くと、そこにはたくさんの人が並んでいました。甘酒を飲んだり、香炉の煙を浴びたりしながら列を進み、ついに順番を迎えます。重厚感のある黒一色の版画が、初めて除夜の鐘をつきに行った男の子の緊張感と静かな夜の雰囲気伝えます。
2021年 2月7日	一さつのおくりもの 森山 京 作 鴨下 潤 絵 (講談社)	小学1年生のクマのお気に入り、「かいがらのおくりもの」。キツネの子が一番好きな貝殻を悩んだ末に友達にプレゼントするという絵本です。ある日、山の向こうの村で水害が起き、被災した子たちへ自分の本を送ることに。でも、汚れていないきれいな絵本は大好きな「かいがらのおくりもの」だけ……。お互いを思いやる優しい気持ちに満ちた物語です。
	ぼくのものき 広野 多詞子 文・絵 (福音館書店)	桃が大好きな男の子は、桃の木を買ってもらい、お母さんと一緒にベランダで育て始めます。植木鉢と土と肥料と小石を用意して植え、水をやり、やがて花が咲きました。受粉などの世話をしていると、とうとう小さな実がなり……。写実的で繊細な絵で桃の成長過程がわかりやすく描かれており、桃の収穫が待ち遠しい男の子の気持ちが伝わってくる絵本です。
2021年 3月21日	ミツバチだいすき 藤原 由美子 文 安井 寿磨子 絵 (福音館書店)	春が近づいたある日、「ぼく」のもとに養蜂家のおじさんから手紙が届きました。おじさんの誘いで養蜂とりの手伝いをするようになった「ぼく」は、おじさんからミツバチの秘密をたくさん教えてもらいます。生き物が好きな男の子の視点を通して、ミツバチの生態と養蜂家の仕事を分かりやすく伝える科学絵本です。
	こねこのレイコは一年生 ねぎし たかこ 作 にしかわ おさむ 絵 (のら書店)	こねこのレイコは、丘の上町の電気屋でご主人と暮らしています。落ち着きがなくご主人を困らせていたレイコですが、かしこいこねこになるために茶畑小学校へ入学することになりました。同級生は、個性豊かな4匹のこねこたちです。交通安全について学んだり、宿題でご主人のお手伝いを頑張ったり、レイコの楽しい日々のお話です。